

【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について⑤～】

〈蚊やダニからうつる病気〉

ある病原体が感染し、増殖する動物を**宿主**と呼びます。そして病原体を宿主から別の動物に運搬し、感染させる動物を**媒介者**といいます。蚊やダニは、ヒトや動物間を吸血しながら移動するため、病原体の媒介者となります。

・マラリア

ハマダラカの唾液に含まれるマラリア原虫に感染することで発症します。熱帯地方を中心に年間 3 億から 5 億人が感染し、150 万人以上が死亡している深刻な感染症です（WHO の推計）。原虫の種類により、「熱帯熱マラリア」、「三日熱マラリア」、「卵形マラリア」、「四日熱マラリア」に分けられます。症状は悪寒を伴う周期的な発熱が特徴です（ただし、熱帯熱マラリアに周期性はありません）。最近では殺虫剤に抵抗性のハマダラカや治療薬に耐性をもつマラリア原虫が現れており、制圧は難しい状況です。

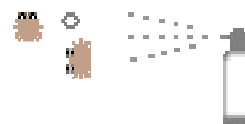


・デング熱、デング出血熱

デングウイルスを原因とし、**ネッタイシマカ**や**ヒトスジシマカ**が運搬役です。主な流行地は、東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国です。今のところ日本国内での感染例はありませんが、海外で感染し帰国後発症する例があります。症状は突然の発熱で始まり、発疹が胸部から手足、顔面へと広がり 1 週間程度で消失します。また、一部に発熱後に出血がみられるものをデング出血熱といいます。デング熱はふつう後遺症もなく快復しますが、デング出血熱では適切に治療しなければ死亡することもあります。

・日本紅斑熱

マダニが運搬役となるリケッチアが病原体です。リケッチアは、宿主細胞の中でしか増殖できない「偏性細胞内寄生細菌」です。我が国では 1984 年に患者が初めて報告されました。ほとんどの患者に、①発熱、②発疹、③ダニの刺し口、の主要三徴候がみられます。日本の発生地域は温暖な九州、四国、中国、近畿、東海地域の太平洋側に限られ、発生時期は 7 月から 9 月の夏季が中心です。マダニは一度かみつくと 1～2 週間は離れずに吸血を続けます。無理に引き抜くと頭部が残り、マダニの体液が逆流して感染の危険が増します。見つけたらさわらずに皮膚科を受診しましょう。



蚊やダニからうつる病気を防ぐ注意点

- ・野外活動の際には、皮膚の露出を少なくする。
- ・蚊、ダニ忌避剤を使用する（蚊帳も有効）。
- ・野外活動後は入浴し、付着するダニの除去を注意深く行うこと。



（感染症情報センター 記）